

鳥取県病原微生物検出情報（令和6年7月検出分；検体採取 令和6年6,7月）

令和6年8月16日
鳥取県衛生環境研究所

1 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザ様疾患の検体1件（検体採取7月上旬）について検査を実施したところ、インフルエンザウイルスは検出されなかった。全国のインフルエンザ病原体定点においても、5月中旬（21週）以降はほとんど検出されていない（図1）。

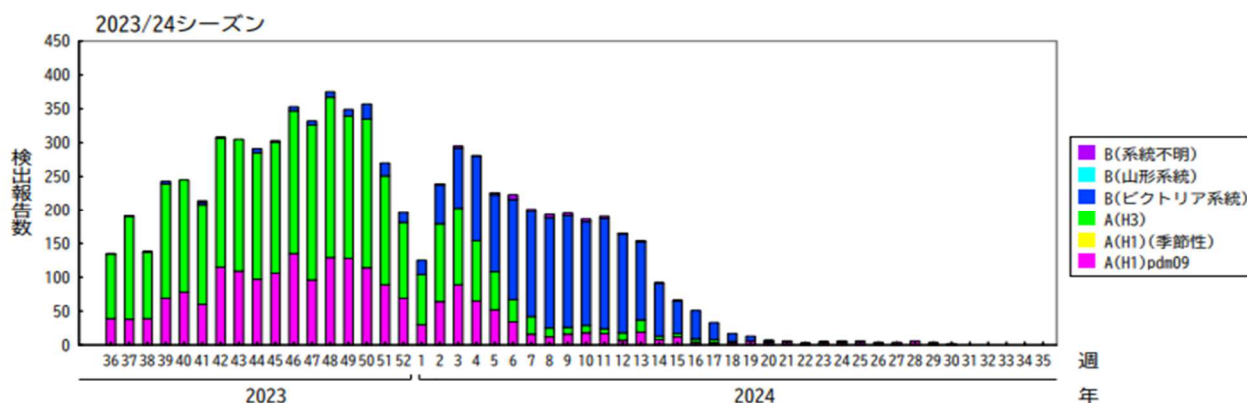


図1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数（2023/24シーズン）

出典：国立感染症研究所病原微生物検出情報

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体4件（ロタウイルス性感染性胃腸炎と診断されたものも含む）について検査を行ったところ、1検体からノロウイルスG2が検出されたが、VP1及びRdRp領域の遺伝子型は決定できなかった。他の3検体はノロウイルス、サポウイルス、A群ロタウイルス、C群ロタウイルス、アデノウイルス（40/41型）、アストロウイルスのいずれも検出されなかった（ロタウイルス性感染性胃腸炎についてはA群及びC群ロタウイルスのみを対象とした）。

3 ヘルパンギーナ

臨床診断名がヘルパンギーナの検体1件について検査を行ったところ、コクサッキーウイルスA群6型（CA6）が検出された。CA6は全国的にも今年ヘルパンギーナから最もよく検出されている（図2）。



図2 ヘルパンギーナ患者から分離・検出されたエンテロウイルスの年別検出状況（2023/24シーズン）

出典：国立感染症研究所病原微生物検出情報

3 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体2件についてアデノウイルスの検査を実施したところ、1検体からアデノウイルス3型が検出された。全国の流行性角結膜炎患者から検出されたアデノウイルスは図3のとおりであり、昨年からアデノウイルス3型の増加が顕著である。アデノウイルス3型は同じ結膜炎を起こす咽頭結膜熱の主要な原因ウイルスであり、咽頭結膜熱は昨年後半から今年前半にかけて流行している。咽頭結膜熱の初感染では流行性角結膜炎様の結膜炎を呈することもあるとされており [1]、鑑別が困難なことと関係している可能性が考えられる。

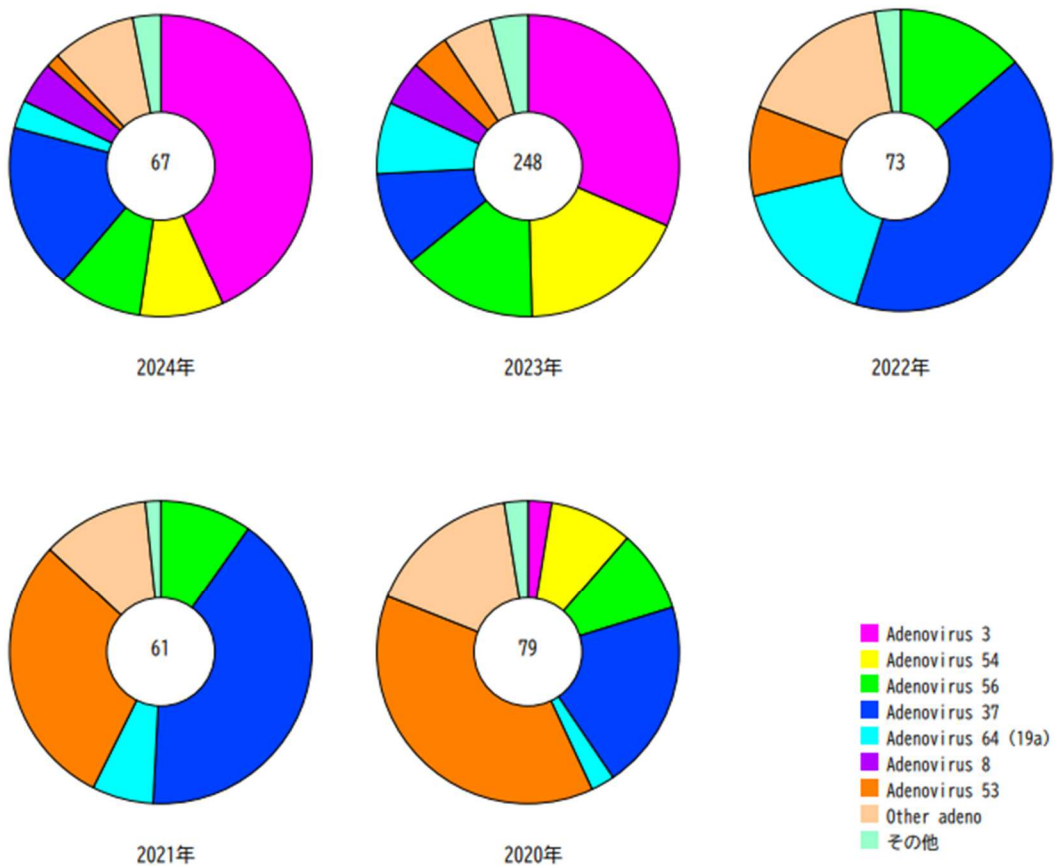


図3 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたアデノウイルスの年別型別検出状況
出典：国立感染症研究所病原微生物検出情報

【参考文献】

[1] 咽頭結膜熱・流行性角結膜炎検査診断マニュアル第3版（平成29年3月、国立感染症研究所作成）